

第1回千代田区子ども読書調査報告書

概要版

平成28年3月

千代田区

内容

第一章 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査対象及び調査方法等	1
3. 回収結果	1
4. 報告書の見方	1
第二章 調査結果	2
1. 対象者の属性	2
(1) 学年・性別	2
(2) 学校	2
(3) 兄弟の有無	2
2. 読書について	2
(1) 読書の好き嫌い	2
(2) 読んでいる本の分野	3
(3) 本を読む理由	4
(4) 本を読む頻度	5
(5) 本を読まない理由	6
(6) 読みたい本の探し方	7
(7) 本の選び方	8
(8) 学校の図書館の利用頻度	9
第三章 調査結果より	10

第一章 調査の概要

1. 調査目的

千代田区の子どもの読書の状況や変化を把握し、今後の読書活動推進に関する施策に活用することを目的とする。また、調査で把握した読書状況を公表することで、読書に関する子どもたちとそれを取りまく大人たちの関心を高め、読書推進につなげるものである。

2. 調査対象及び調査方法等

調査対象	千代田区立小学校、中学校、中等教育学校（前期課程）の児童・生徒
抽出法	全校各学年1クラス
調査方法	小学校、中学校、中等教育学校（前期課程）における配布・回収
調査時期	平成27年11月2日～平成27年11月24日

3. 回収結果

	回収票数（回収率）
小学校1年生	201（93%）
小学校2年生	199（94%）
小学校3年生	223（96%）
小学校4年生	233（92%）
小学校5年生	210（93%）
小学校6年生	232（98%）
合計	1,298（94%）

	回収票数（回収率）
中学校1年生	95（97%）
中学校2年生	97（96%）
中学校3年生	99（98%）
合計	291（97%）

4. 報告書の見方

- 調査結果の数値は、回答率（%：パーセント）で表示している。母数はその質問項目に該当する回答者の総数であり、その数はnで示している。
- nが30未満の結果については、サンプル数が少ないため、参考値扱いとなる。
- %の数値は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表示している。このため各回答の数値の合計が100%とならない場合がある。
- 回答は、単数回答（回答は1つ）の場合と複数回答（回答はいくつでも）の場合とがある。複数回答の間の場合には、その回答割合（%）の合計は100%を超えることがある。
- TOTALと比較して統計的に有意な差（有意水準5%）を中心にコメントを記載している。
- 図表として示したものの中には「無回答者」を省略した部分があるため、区分ごとの実数（nの値）の合計が全体の標本数と一致しないことがある。

第二章 調査結果

1. 対象者の属性

(1) 学年・性別

小学生、中学生とも、性別はほぼ1：1であった。小学生は各学年約200名、中学生は各学年約100名と、学年の間に大きな差は見られなかった。

(2) 学校

学校間で回収数に大きな差は見られなかった。

(3) 兄弟の有無

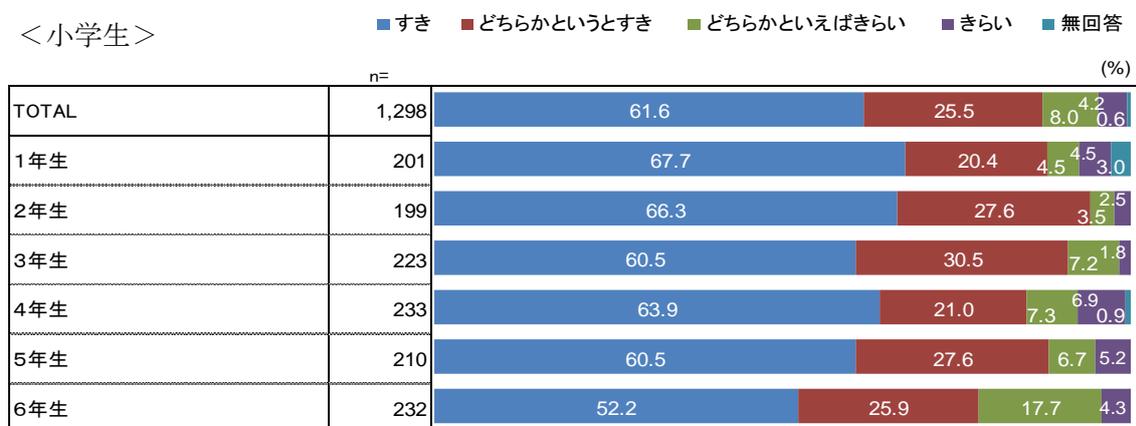
小学生、中学生とも、「兄弟（姉妹）がいる」は7割強となっている。

2. 読書について

(1) 読書の好き嫌い

小学生は全学年で「好き」が過半数を超え、「好き」「どちらかというとき」を合わせた『好き』は約9割と、読書好きな傾向である。

<小学生>

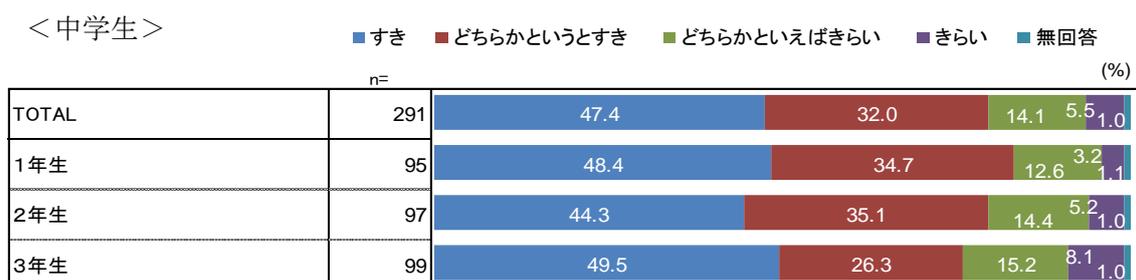


※性別無回答は非表示

中学生も小学生同様、全学年で「好き」が最も高い。

「好き」「どちらかというとき」を合わせた『好き』は、約8割と、若干小学生よりも割合が下がっているが、総じて読書好きな傾向である。

<中学生>

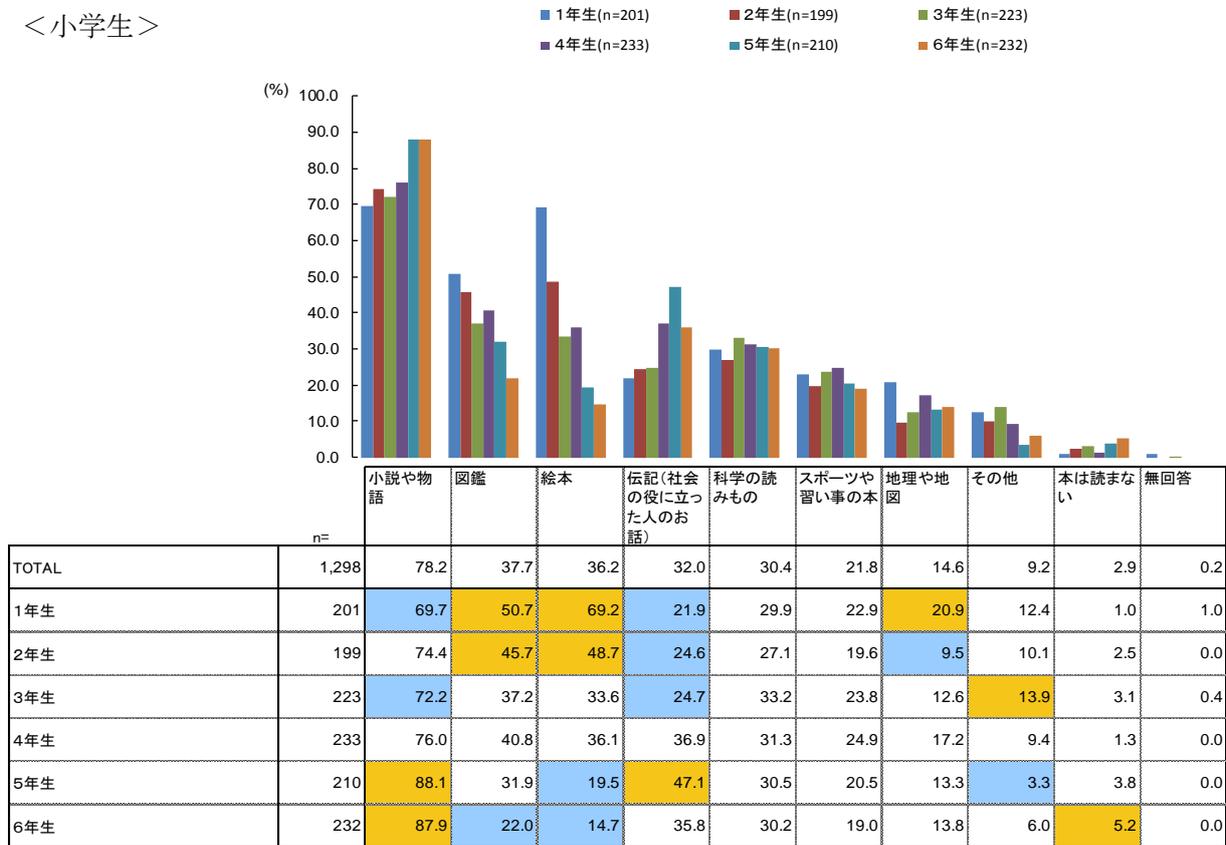


※性別無回答は非表示

(2) 読んでいる本の分野

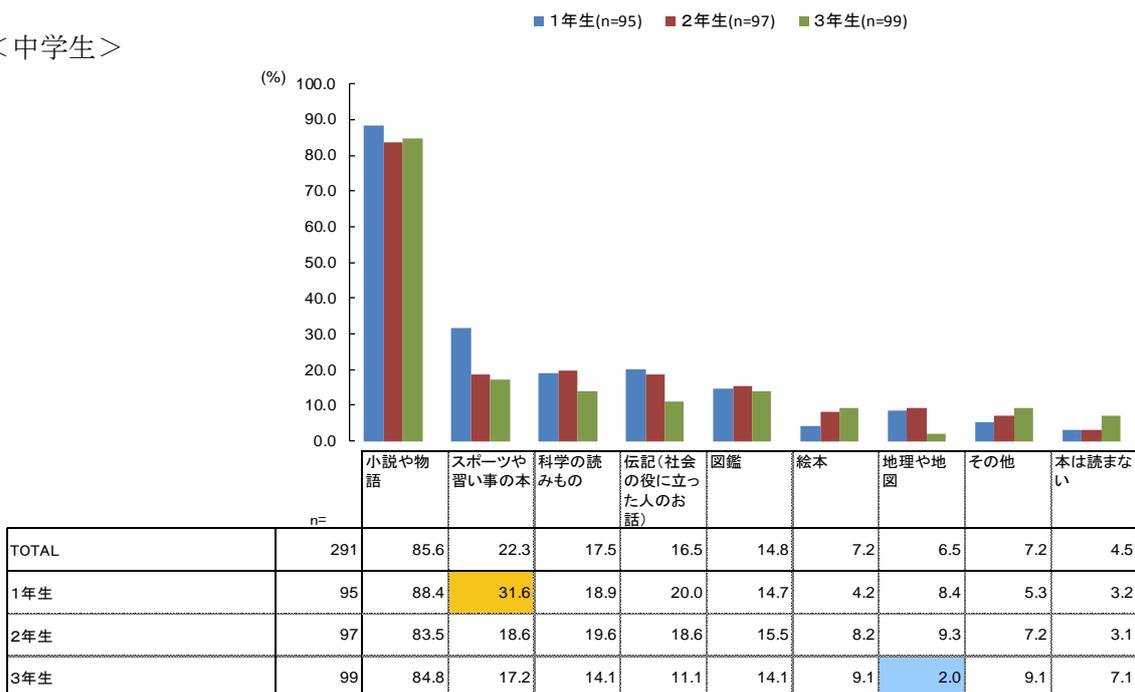
全学年で「小説や物語」が最も読まれている。特に「小説や物語」は小学校高学年、中学生になるほど割合が高く、「図鑑」や「絵本」は小学校低学年ほど高くなっている。また、5年生では「伝記」が多く読まれている。

<小学生>



※性別無回答は非表示

<中学生>

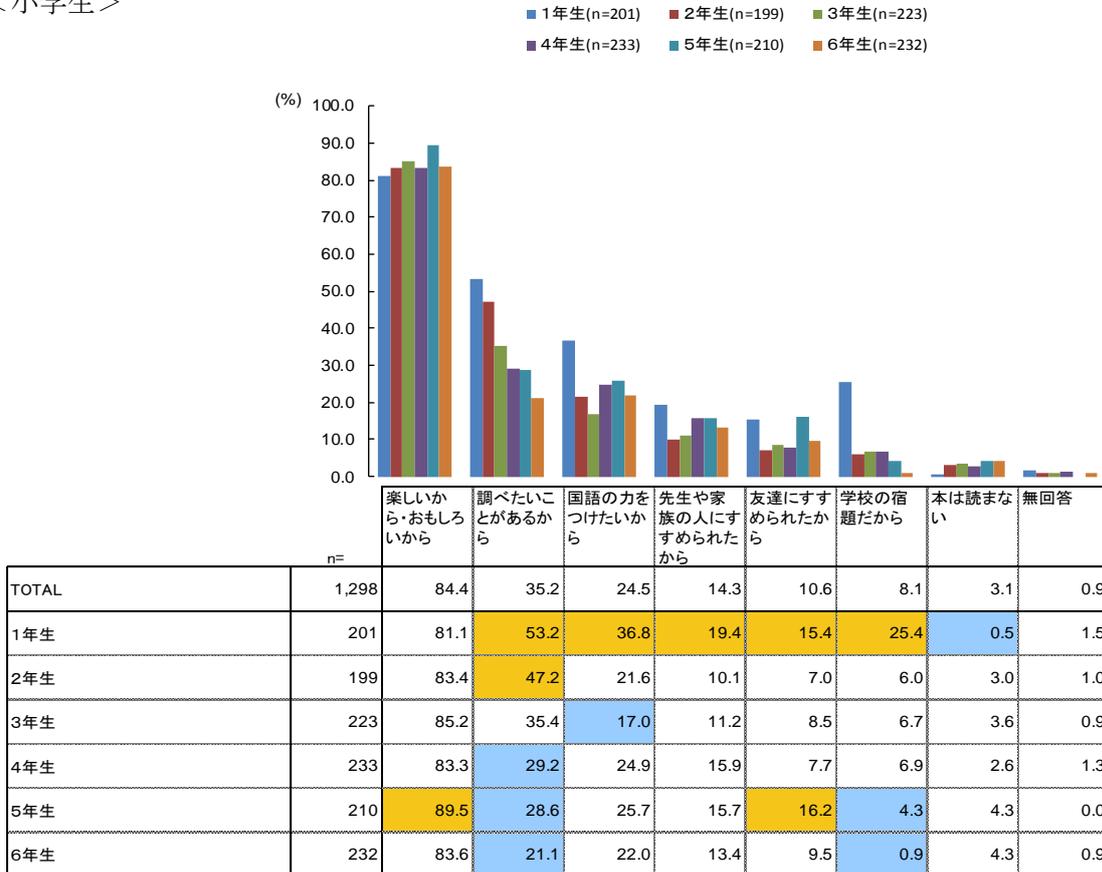


※性別無回答は非表示

(3) 本を読む理由

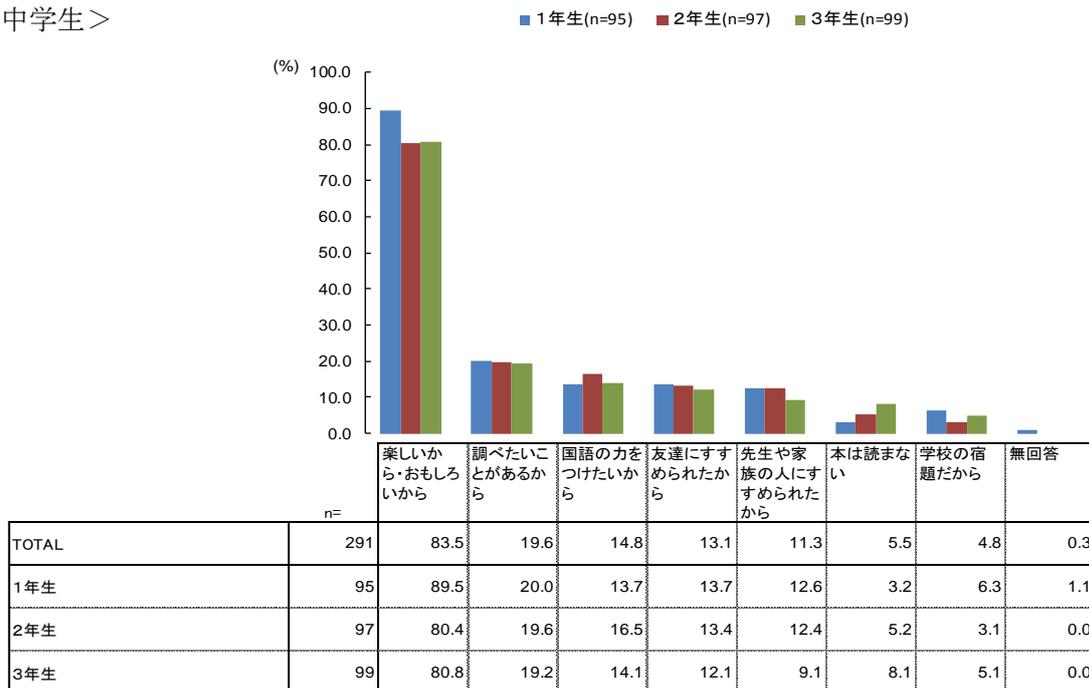
小学生、中学生ともに、「楽しいから・おもしろいから」が最も高い。小学生では、「調べたいことがあるから」は、低学年ほど高い傾向が見られ、1年生ではその他に「国語の力をつけたいから」も高く、周囲の人からのすすめも影響が大きいことが分かる。

<小学生>



※性別無回答は非表示

<中学生>

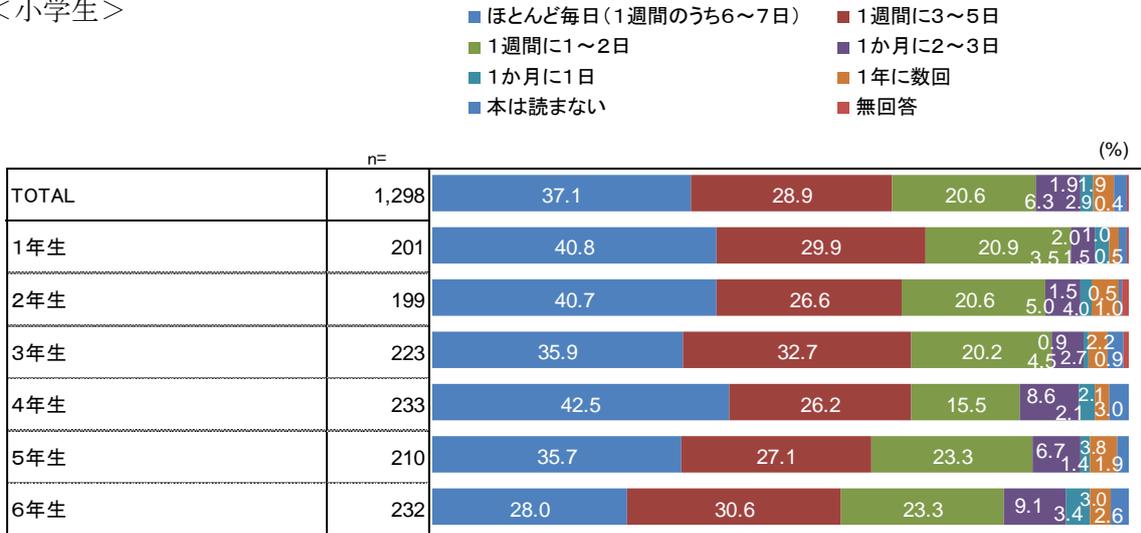


※性別無回答は非表示

(4) 本を読む頻度

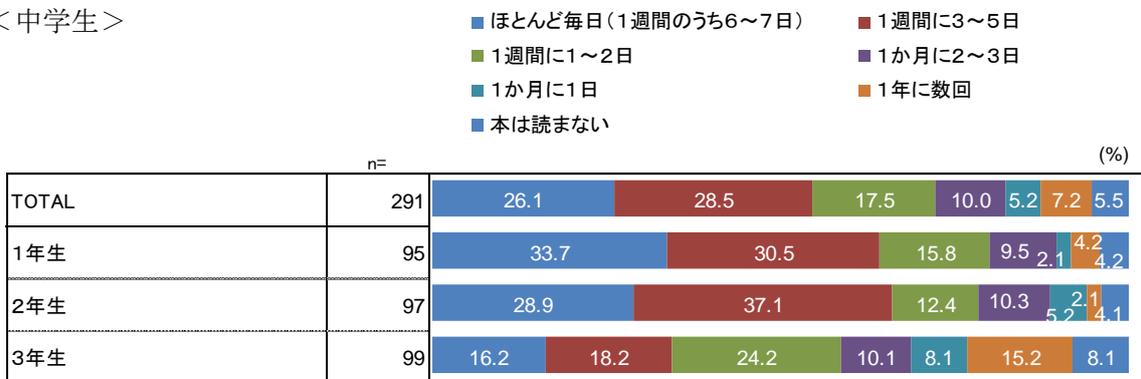
小学生では、1年生から5年生までの学年で「ほとんど毎日（1週間に6～7日）」が最も高い。

<小学生>



中学生は、1年生では「ほとんど毎日（1週間に6～7日）」が最も高く 33.7%となっているが、学年が上がるにつれてその割合が下がる傾向が見られる。

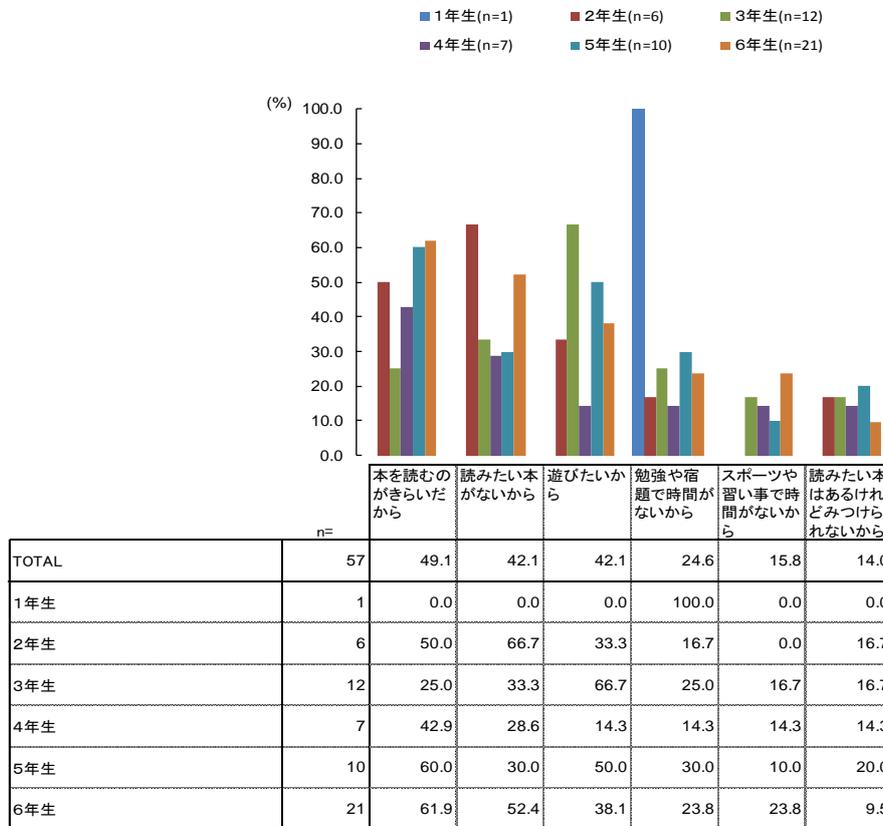
<中学生>



(5) 本を読まない理由

ひと月に読んだ本が「0冊」との回答者に読まない理由を聞くと、小学生では「本を読むのがきらいだから」、「読みたい本がないから」、「遊びたいから」が高くなっている。

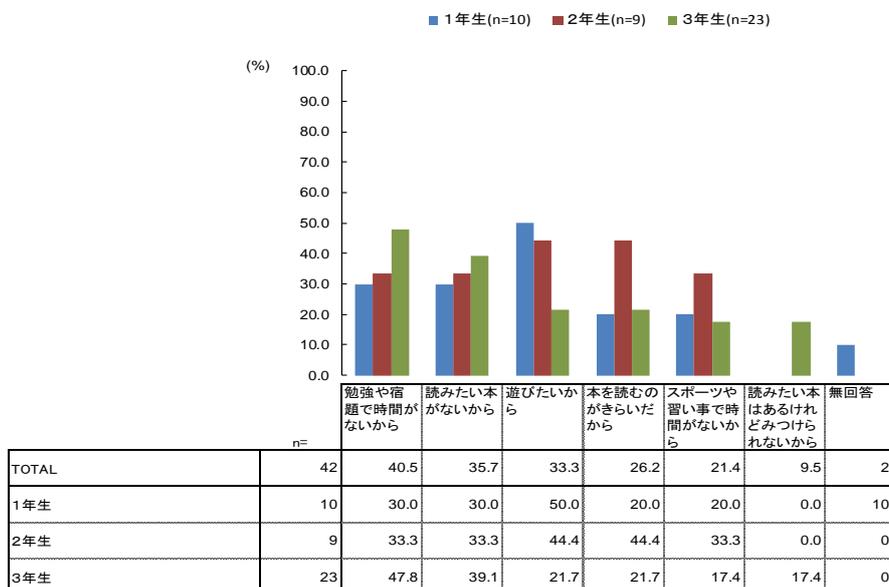
<小学生>



※性別無回答は非表示

中学生では、「勉強や宿題で時間がないから」、「読みたい本がないから」、「遊びたいから」が高くなっている。

<中学生>

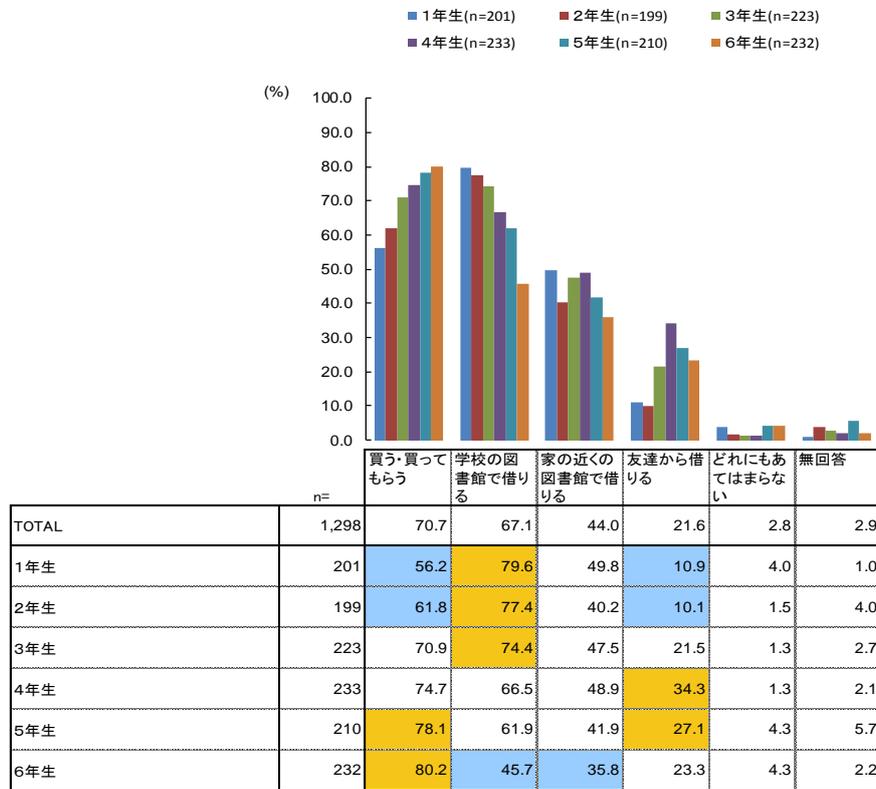


※性別無回答は非表示

(6) 読みたい本の探し方

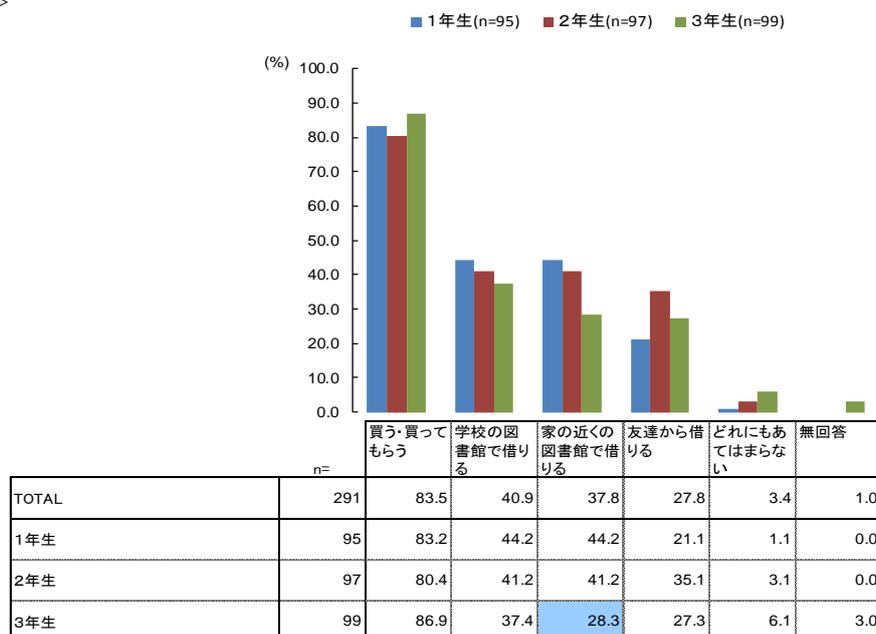
小学生は、「買う・買ってもらう」、「学校の図書館で借りる」がそれぞれ約7割と高く、中学生は「買う・買ってもらう」が約8割と高い。学年が上がるにつれて「買う・買ってもらう」が増え、「学校の図書館で借りる」が減る傾向が見られた。

<小学生>



※性別無回答は非表示

<中学生>



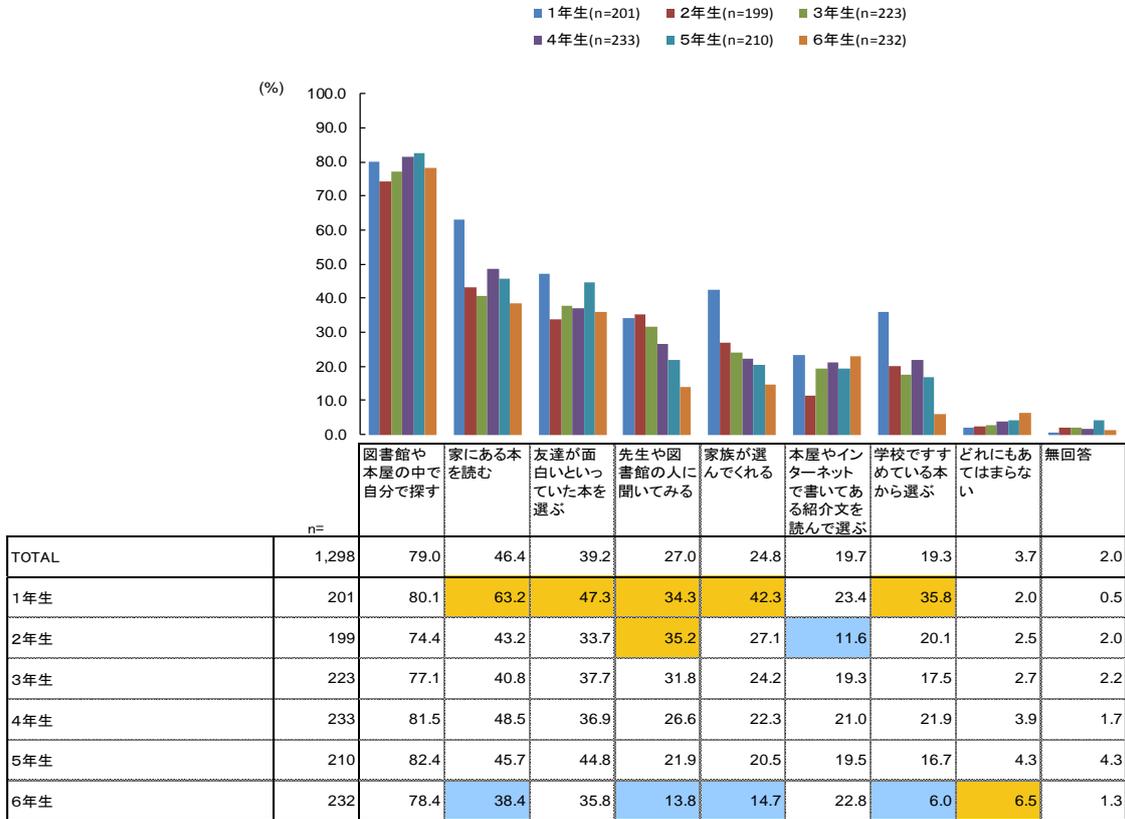
※性別無回答は非表示

(7) 本の選び方

小学生、中学生とも、「図書館や本屋の中で自分で探す」が高い。

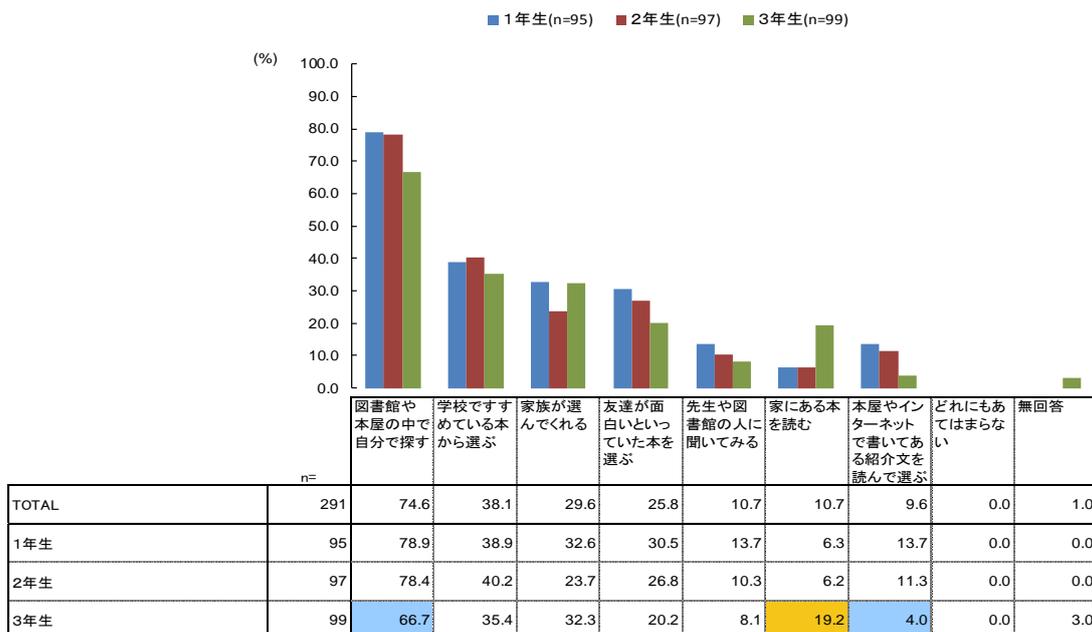
小学生では、「家にある本を読む」、「友達が面白いといっていた本を選ぶ」と続き、中学生では、「学校ですすめている本から選ぶ」、「家族が選んでくれる」と続く。

<小学生>



※性別無回答は非表示

<中学生>

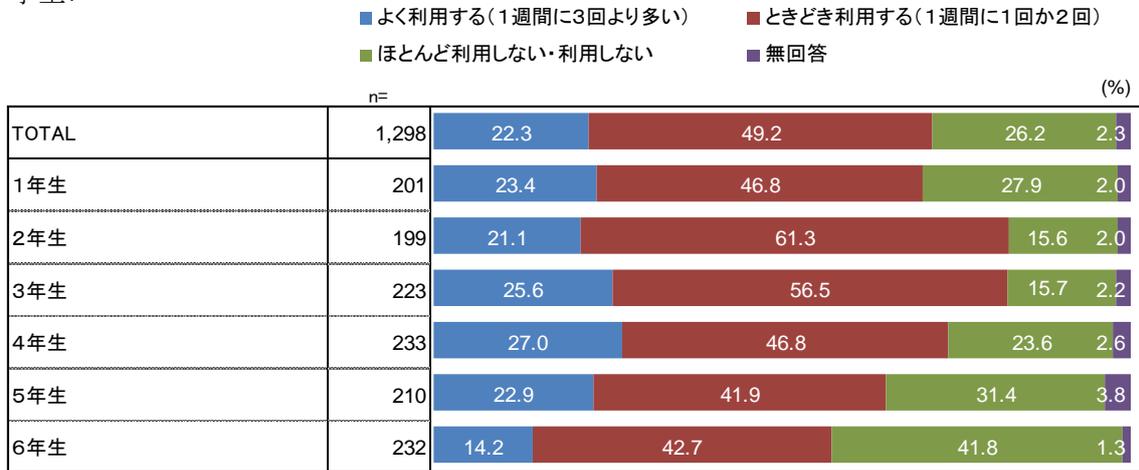


※性別無回答は非表示

(8) 学校の図書館の利用頻度

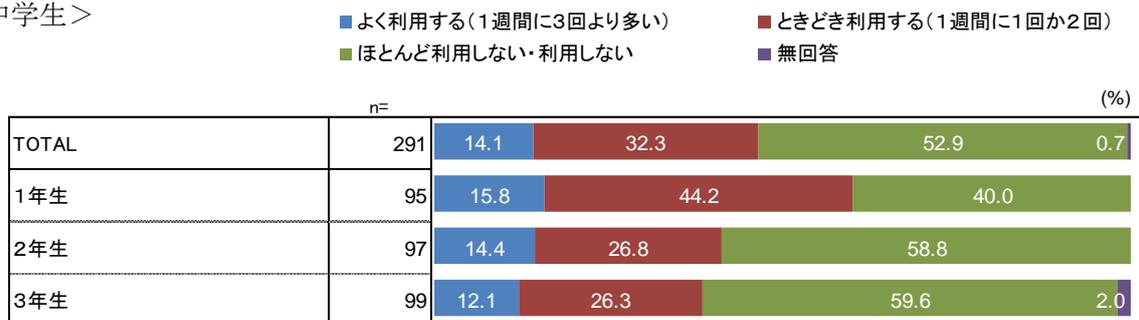
小学生では、「よく利用する（1週間に3回より多い）」が約2割、「ときどき利用する（1週間に1回か2回）」が約5割となっている。2年生と3年生の利用頻度が最も高く、学年が上がるにつれて利用頻度が下がる傾向が見られる。

<小学生>



中学生では、「ほとんど利用しない・利用しない」が5割を超えている。「ときどき利用する（1週間に1回か2回）」も、1年生で4割を超えた割合が2年生以降は3割未満となっている。

<中学生>



第三章 調査結果より

調査の結果から千代田区の子どもたちの読書状況を以下のように読み取る。(全調査データより)

- ・小学生も中学生も総じて読書好きな傾向がある。男子よりも女子のほうが本を読むことが「好き」であり、学年が上がるごとに緩やかに「好き」の割合が減少する傾向があるが、概ねの子どもが「好き」である。
- ・本を読む理由や読んでいる分野は小学生のほうが多岐に渡っており、中学生になるにつれて「楽しいから・おもしろいから」という理由で本を読み、その分野も「小説や物語」を選ぶ割合が高くなっている。読書習慣もあり、読書量も多い子どもは、さまざまな手段で各々の読書の幅を自主的に広げている様子がうかがえるので、学校図書館に足を運んだときに目にすることができる掲示物や配布物は、より研究を進めたい。読書の推進には本の楽しさ・おもしろさを伝えることが重要である。
- ・本の選び方において、「図書館や本屋の中で自分で探す」割合が最も高いが、中学生では「学校ですすめている本から選ぶ」も高い割合であった。図書館から派遣している司書が支援できる項目である。また本を読まない理由として、少数ではあるが「読みたい本はあるけどみつけれないから」という回答が見られた。周囲の支援により改善できるポイントである。
- ・本を読む頻度は、小学生において「ほとんど毎日（1週間に6～7日）」が大半の学年で最も高いことから、読書習慣が定着している子どもが多い様子がうかがえる。中学生になると、学年ごとにその頻度は減少傾向にあり、読まない理由をみると「勉強や宿題で時間がないから」が多くを占める。小学6年生と中学3年生、その中でも男子に減少傾向が見られる。限られた時間の中でも良本と出会えるように、情報提供の必要性も感じられる。
- ・小学校入学前に本を読んでもらった経験が「よくあった」子どもは、本を読むことが「好き」で、読む本の冊数も多い傾向が見られ、読み聞かせがその後の読書傾向に良い影響を与えていることがうかがえる。千代田区における0歳からの一貫した読書活動支援で、将来に渡って好影響を与えることができると考えられる点である。
- ・本を読んでいない子どもは本との適切な出会いが少ないために、読書から遠ざかっていると考えられる。学校図書館の利用率が低いことから、まずは図書館に足を運ぶ機会を増やすことが必要である。現在学校では、①読書週間を年間予定に組み込む、②授業で図書館を利用する、③おすすめの本のPOP作成を授業で行う、④朝読書のときに読み聞かせの時間を設ける、といった取組が行われているが、これらに加え学校と学校支援担当司書の連携をより強めることで、子供たちにより積極的な働きかけを行っていく。興味の有無に関わらず図書館に足を運ぶ“しかけ”を一層工夫することで、「こんな本があるんだ」、「これはおもしろそう」と、本との出会いの可能性をひろげていきたい。

今回の「千代田区子ども読書調査」により、現時点での千代田区の子どもたちの読書状況の概況を数値として明らかに出来た。今回は初回の調査であり現状の把握にとどめたが、次年度以降の調査では読書状況の変化や一定の傾向を探り、その内容をさらなる読書推進活動に繋げていく。